0101-45 1904.1.1 0:22 AM ページ1 (1,1)

真田町長が訪ねた ２１世紀の主役たち

自然を大切にしながら活力のあるまちに

新しい年を迎え、本町も「未来に輝くふるさと」を目指し、より豊かな地域社会づくりに取り組んで行かなければなりません。

昨年12月８日、「成人式実行委員会」に携わっていただいているメンバーに出席をいただき、若い世代の将来の夢や町の未来について直接町長とともに語りあっていただきました。

その概要を紙面でお伝えします。

20歳を迎えて…将来の夢を語ろう

20歳を迎えて、みなさんの将来の夢や、やってみたいことを聞かせてください。

広根
畑中宏基さん

【北林】20歳を迎えて、自分が小さい頃から将来の夢と言っていたものを実現していく年なんだなと思いました。小さい時からマザー・テレサのような人になりたいと思っていました。それを生涯の夢として、常に目標を持ってがんばり続けたいと思っています。

【畑中】小さい時から野球をやっていて、将来の夢を聞かれたら「野球選手」って言っていました。でもそれは無理だということを高校に入って実感しました。じゃあ自分はどうしようかって考えたら、人と接していく仕事が向いていると思って、オーバーですけど、自分を犠牲にしてでも人を助けたいという風に思ったので、今はレントゲン技師の勉強をしています。レントゲン技師として病院で働くことで、いろんな人とコミュニケーションが取れると思うので、そういうことを通じて人からいろいろ吸収して、自分も学んでいきたいと思っています。

【森本】私は小さい子が好きで、保母さんになりたいと思っていました。でも最近まで話題になっていた少年犯罪のニュースなどを見て、「今まではおとなしい子だったのに」という報道が多かったことから、人の心の中などがすごく興味を持つようになりました。それで心理学を学べる大学に入りました。子どもたちの話を聞いてあげて、支えになってあげたいので、カウンセラーになれたらいいなと思っています。

広根
北林佳世子さん

【和田】僕は、小さい頃から車が大好きで、車をお客さんに売るディーラーの仕事がしたいと思っています。お客様に買ってもらうということは、いろんな会話があって、気持ちが通じ合った上で成り立つと思うんですよ。また、これまでに僕はいろんな人と接して、年上の人たちには僕らを支えてくれる人がいっぱいいると実感しました。それで、僕らが年をとった時に、子どもたちや高校生の人たちにとって見本になるような大人になっていきたいと思います。

【町長】皆さんがそれぞれしっかりした考え方を持っていて素晴らしいと思います。道に迷って道を知る、という言葉があります。自分でいろろ模索しながら、わからない部分に到達し、成長しながら進んでいくということです。皆さんにはめざす方向に向かって精一杯努力してほしいですが、たとえ厳しい経験が待っていたとしても、自分の力で克服できる力もつけてほしいと思います。

また、君たちを育ててくれたお父さんやお母さんは40代だと思いますが、これからの社会の中で20年後、30年後に不安な時代が訪れると言われています。そこで、皆さんを大事に思って育ててくれた人たちを、今度は逆にどう支えていくのかということを考える必要があります。しっかりと自分の生を見つめて、地に足をつけた生活の基盤を築き、そして生活力をつける方向でがんばってほしいですね。

猪名川町のここがいい！

猪名川町の自慢に思うところ、人に紹介したいところはどこですか。

▲猪名川町の将来の夢を語り合う様子

【森本】蛍がすごくきれい。家でも蛍が見られます。

【和田】周りの人から見たら田舎って言われるけど、自分たちからしてみたら住みやすい。

【北林】星もきれい。

【和田】自然がなくなってプラスになる面もあればマイナスになる面もあるから、それを考えていかないと、猪名川町っていう自然のいい町が変わっていく気がします。自然は破壊したら再生しないから、昔からある自然を大切にしないといけないと思います。

【北林】猪名川は自然とうまく共存していっていると思います。

【畑中】発展してもいいけど残すものは残していかないと。山とか川とか。

【北林】昔は田んぼを走り回って、朝から晩まで川とかで遊んでたよね。今は川で遊んでいる子や田んぼを走ってる子は見ない。

【森本】山の中に基地とか作ったよね。

【和田】秘密基地ね。今では作れるところはないし、今の子どもと僕らは違うと思います。

【北林】この10年くらいでこんなに変わるのかなって。今もそういう遊びをしてほしいよね。

【和田】今ジャスコのおもちゃ屋でバイトしてるんですよ。すごくいい天気の日に、子どもがグームをしに来ているのがもったいないって思って。公園もあるのに、もっと外で遊んでほしいですね。

【北林】猪名川は公園が多いですよね。大きいし、十分外で遊べると思います。

【和田】でも日曜日は緑公園はすごく人が多くてある意味ほっとする。

▲若い人の情熱を感じながら真剣に受け答えする真田保男町長

【北林】あと猪名川の魅力って何があるかな。

【和田】人間があたたかいところ。

【森本】おばあちゃんやおじいちゃんが多い。

【北林】多いね。でも住んでいるところによってすごく年齢層の高いところと若い人ばかりのところに分かれている気がします。

【和田】住んでいるところによって人も全然違うかもしれない。こっちのおじいちゃんやおばあちゃんはある意味気さくで、よくしゃべってくれます。あと、大学が大阪でがやがやしているので、猪名川に戻ってきたらほっとします。都会になっていないことはあまり多くないと思うから、田舎田舎って言わないで、田舎だからこそできることをしていかないと。

【畑中】地域の祭りとかもあるしね。

【森本】秋祭り。おみこしとか。

【畑中】そういうのも続けていってほしいよね。

【和田】地域の祭りも広根とかではやっていて、白金にはないのですごくうらやましい。そういうことで近所づきあいもできるし。それがなくなったら淋しいと思います。パソコンパソコンって言われているけど、やっぱり人と人だと思う。

【北林】子どもの頃は裸足で歩いても普通だったよね。長靴にカニとか入れて歩いてた。

【森本】カブトムシとか取りに行ってたね。今年は普通に家に飛んできたよ。

【和田】今はおもちゃ屋で売ってるからな。クワガタとか六百円くらいしますよ。そこに取りに行ったらいいと思うけど。

【和田】取りに行きますよって言うんだけど、取れるところを知らないみたい。取り方も多分わからないと思う。

【森本】こんな会話ができるのも猪名川町だから。

【町長】猪名川町で一番いいところはやっぱり自然と人情ですね。それから古い伝統的な地域の行事、田舎っていうのはみんな山奥っていう感じに捉えがちだけど、都会で生まれて住んでいる人は、そこが田舎でその範囲しか知らないから、どちらかというと山の中で育った人の方が都会人なのかもしれないと言っていました。なぜなら、そこから出発して、そこに満足しないという考え方によってさらに遠ったところに目を向けられるからです。そして、どこから来たのって聞かれた時に、猪名川町だと言ってもわからないから、川西の多田神社のちょっと奥などと言う人がいますが、兵庫県の猪名川町っていうところだと言って自分の住んでいるところに誇りを持ってほしい。それと、たとえば白金では夏祭りということになると実行委員さんがちゃんと組織されて、他の人は参加するだけですが、広根はそれに比べると規模が小さいから、実行委員になる人も参加する人もみんなが何かをして、全員が参画しています。そのように、猪名川町もみんなで参画して素晴らしいまちにして、みんなでまちの自慢をしたらいいと思います。以前猪名川町のいいところ、見どころ展として作文や写真、絵をみなさんに出してもらうという展覧会をしました。そのことをできるだけ多くの人に知ってもらって、ここに住んでいるがいいと思うところをみんなで宣伝していったらいいですね。

町の未来のためにすべきことは

もっと魅力的な町とするために必要なことは何だと思いますか。

旭ヶ丘
森本佑美さん

【北林】私は福祉を学んでいるから、猪名川町の福祉のことにも目がいってしまいますけど、せっかくいい施設や設備が整っていても、介護を要する人しかそのことを知らないですよね。ゆうあいセンターでグループホームみたいなことをしているというのも、他の都市ではあまり見られないことなのに知っている人が少ないし、何をしているかわからない。それではせっかくサービスをしてももったいないと思います。もっと私たちのような若い世代でも、猪名川町の福祉はこんなに整っているということを知っていれば、これから老後も猪名川町で過ごせるという安心感になるから、誰にでも福祉のことをわかってもらえるような働きかけが必要だと思います。

【和田】僕らも年をとっていくし。さっき町長が言われてたように、自分たちも親がいたおかげで大きくなったから、恩返しと言ったら変だけど、親を支えていって面倒を見るというのは当然意識しておかないといけない。自分たちの子どもができた時にも同じだから。

【北林】そう。だから保育ももっと発達してたらいいよね。

【和田】次の世代に見本を見せないといけないし。僕らも20歳になったけど、子どもから見たらもう大人に見えるから。20歳になったら社会的にも大人だし、自分で大人という意識を持たないと。

【町長】皆さんは僕から見ても、もう立派な大人で期待もかけられるし、ある程度の社会に対する責任も感じてもらわないといけないですね。そういう意味で成人式というのはいい節目となるでしょうね。

【和田】そうやって見られると自分たちも気がひきしまるし、いいプレッシャーになりますね。逆に子どもって見られたらマイナスだし、大人に見られるように努力しないといけない。その自覚が大切だと思います。

【畑中】僕は町外に住んでいるからそれと比較してしまうんだけど、向こうには短大とか専門学校がいくつかあるので、猪名川町にもできたらいいと思います。でもそれでまちが崩れるようになってきたら考えないといけないけど。あと、自然を活かしたテーマパークみたいなのや、キャンプ場など、自然とふれあうところをこっちから創っていったら、もっと猪名川がよくなると思うな。

【和田】キャンプ場は最近人気があるよね。合宿とかで使われているし。

【畑中】そういうあるものじゃなくて、自分たちでやっていく。

白金
和田秀之さん

【和田】大学を造ってもいいよな。いろんなところから人が来るし、猪名川町のことを知ってもらえるし、ここでしかできないことっていっぱいある。自然もあるし。猪名川町から行く人がいてもいいと思う。僕らも小・中・高と地元の学校に行ったから、別に大学も大阪に行かないといけないという決まりはないし、今大阪で勉強しているメリットもそんなにないから。猪名川で大学を造るのは大変だと思うけど、町立大学っていうのは難しいのかな。

【町長】大学誘致については、文部省自体が大学は増やさないとしていますから、難しいですね。でもチャンスがあれば取り組みも考えていきたいと思っています。また、地域社会は、そこで一緒に育って思い出話しをできる人がいてこそふるさとだと思います。そおいう仲間が消えていかないような社会を築かないといけないのです。そのために、今大野山の自然を活かして天体観測施設を造っています。1万5千本のあじさいが植されていて、あじさい祭りも行われています。どちらかというと「ひょうご森の祭典」という県の事業を猪名川町でやることが決定しています。猪名川の自然や、自然の大切さを人々に知ってもらおうというイベントです。さらに、猪名川の清流を取り戻そうという住民運動も展開して、川の大切さを住民のみんなに考えてもらおうと思っています。そういうことを行っていくとしても、3万人規模のまちだった住民の皆さんに一人ずつ声をかけられます。これだけまとまって、住民が一体となってみんなが考えて参加していくまちはないと言われるまちを造ることは、その気になれば不可能じゃないと思います。じゃあどうしたらその気になってもらえるかということが一番難しいところですけどね。だから皆さんのような若者の意見が、あるいは力が集まればまちは変わると思います。そういう点で、いろんな場面で声がかかった時は力になってほしいですね。

▲つつじが丘の向山公園から眺望する広根・パークタウン方面

町ホームページ「猪名川町の今」随時更新中！

町の最新情報を掲載しています。アドレスは、http://www.town.inagawa.hyogo.jp/へ。　問い合わせは、町長公室（ 66－8707）へ。

路面凍結・スリップに注意

冬場の道路は降雪や凍結によって路面が滑りやすくなっています。状況にあわせて、車にはスタッドレスタイヤまたはタイヤチェーンを装着し、十分注意して走行してください。

また、町内各道路の適切な場所に融雪剤を配置しています。ご使用してください。車体・鉄類などに付着したまま放置しておくとさびがでるので注意してください。

各所に配付している融雪剤の袋に傘などで穴をあけると水分と反応して溶けだしたり、固まったりしますので、使用時以外は穴をあけないでください。

問い合わせは、建設課（66・8705）へ。

▲凍結時は融雪剤の利用を

新春マス釣り大会

とき　平成14年１月14日（祝）受付＝午前７時～　競技開始＝同７時３０分　競技終了＝同11時

※ 川の増水などで釣場不良の場合は、１月20日（日）に順延

ところ　北田原マス釣り場

参加料　１人３千円

競技方法　一匹長寸、エサ釣りのみ

申込み　当日会場で行います

問い合わせは、町観光協会事務局（産業課内　66－8709）へ。

平成13年度猪名川町明るい選挙推進講演会

「取材から見た舞台裏」 ―選挙はとってもエキサイティング―

▽とき　平成14年1月22日（火）午後2時から

▽ところ　生涯学習センター階視聴覚ホール（図書館2階）

▽講師　神戸新聞社社会部次長　高梨柳太郎さん

▽参加費　無料　１５０人程度　予約不要

▽講師内容　小泉政権誕生の自由民主党総裁選挙から、参院選・兵庫県知事選のダブル選挙、神戸市長選挙などの取材から見た選挙の舞台裏をこぼれ話しも交え講演していただきます。

問い合わせは、猪名川町明るい選挙推進協議会事務局（総務課内　66・8708）へ。

消費生活のアドバイス

＞131＜

気をつけよう、若者をねらう悪徳商法

悪徳商法などのトラブル防止のため、相談業務を次のとおり行っています。

とき・ところ
1月9日（水）役場相談室
1月16日（水）役場相談室
1月23日（水）役場相談室
1月28日（月）日生住民センター
1月30日（水）役場相談室
いずれも午後１時から同５時まで

問い合わせは、消費生活相談コーナー（ 66－1110）へ。

〈事例〉 最近、子どもに電話が頻繁にかかるようになりました。相手は個人名を名乗り、子どもの名前をさうので、てっきり子どもの友人と思い取り次ぎました。しかし、子どもに聞いたら「ぜんぜん知らない人で、一度会いたい」と言っていると言います。

最近、このようにして若者をねらう悪徳商法も多いと聞きましたがどういうことに気をつけたら良いでしょうか。

〈回答〉 若者を狙う、このような勧誘の電話は20歳の誕生日が過ぎてから多くなります。未成年の場合は法定代理人の同意のない契約は原則的に取り消すことができますが20歳を過ぎた成人の契約は、いったん成立すれば一方的に解除はできないからです。

デートに誘う口実で会社に連れて行き、高額な宝石や毛皮や絵画を買わせるデート商法や、はっきり目的を告げずに「説明会」「イベント」などに誘い、簡単に楽して儲かると言って、販売組織に加入させピラミット型に会員を増やしながら商品を販売して行くマルチ商法などがあります。

被害者に若者が多い理由の一つは、悪質な業者が彼らが持っている「夢」や「甘さ」に付け込もうとしているからです。

また、働いている若者は自由に使える お金を比較的多く持っていることと、クレジットが普及したこと、社会経験が少ないため、断ることが苦手であることも原因といえます。

被害に遭わないために

①「あなただけ」「今だけ」、やさしい言葉、うまい話には気を付けましょう。

②要らないものははっきりその場で断りましょう。

③クレジットは借金です。月々の支払い額ではなく、支払い総額を認識し、本当に自分にとって必要かと判断しましょう。

④路上勧誘や知らない人からの電話は相手にしないようにしましょう。

最近は携帯電話が普及して、なかなか子どもの行動が把握しづらくなってきています。郵便物などにも気を配り、被害に遭わないように、家族で気を付けましょう。

疑問な点は、消費生活相談コーナー（ 66・1110）へ。